

夜留守居で添削句評。

十二月四日(初氷 朝日光浴)

淇南へ林檎のお禮。本門寺山ポストへ未だ苦しい。然し鶉や枯木拾ひや森の中は面白い。夜猛烈に冷える。東北は大雪で汽車不通。

散 紅 葉 交 へ て 離 々 と 初 氷
風 呂 敷 の 頬 被 り し て 頬 赤 き 娘

十二月五日(朝 日光浴)

氷厚くなつて冷える。日輪と大木の紅葉とが毎日々々美しいけれども毎日々々散り減じて行く。もう一寸で錦木も散り盡す。かりたごで柗董氏の九官鳥は僕の鉦叩の句を正當に批評して呉れて嬉しい。夜猛烈に冷えてマント被つて往生。ガラスの部屋は野外同様で鼻の頭が眞赤になつて寒い。京都の僧堂より倍も寒い。矢纏に寒い。露膏膏を俳句研究へ。

十二月六日(晴だが風強くて日光浴休み)

猛烈な霜で昨日まで突張つてゐた芭蕉廣葉がボキ／＼折れた。庭は霜柱で歩くとボコ／＼穴が開く。本門寺山ポストへ未だ苦しい。然し鶉の森は楽しい。氷點一度六分。

霜 除 の 影 君 見 ず や 寒 山 子
蜂 の 巢 の 交 り て 悲 し 散 紅 葉

十二月七日(晴日光浴後曇)

雑詠豫選一氣終了。

十二月八日(晴日光浴)

朝清の出征を大工が通知に來た。午後青龍社行の途中息切で電柱に靠れて休む。未だ苦しい。途中清の自動車に會つて同乗。丁度いゝ。

十二月九日(晴)

終日草臥れ休みで齒痛。夜ボヤ／＼。改造臨時増刊一氣讀了。

十二月十日(朝晴後曇)

薄煙りが立つて曇つて庭は霜柱が消えてボコ／＼しなくなつた。少し寒さがゆるんだ。然しそれを繰返して寒くなつて行くのだらう。岩波の碧巖芭蕉ジイド其他買。

十二月十一日(晴れて暖かい薄煙り)

氷も張らなかつた。遂に南京入城新聞萬歳。

十二月十二日(晴れて暖かい小春日續き)

朝清應召出征。晝頭刈る。夜添削句評。

十二月十三日(晴日光浴)

大木の紅葉はすっかり散り盡して日輪が梢に眩しい。今日は日の色が澄んで美しい。晝本門寺山ポストへ。苔白い墓石の日が冴え凍つてゐて美しい。澄んでゐるといふよりは冴えてゐる。冴えの感じがはつきりする。